

本日の主題 <<ほんとうの親切 >> 【 A ⊙ B ・ C ・ D 】

A: 主として自分自身に関すること      B: 主として人との関わりに関すること  
 C: 主として集団や社会との関わりに関すること      D: 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

【1】主題解釈 : この主題を学ぶ意義を捉えよう

①この主題の大切さは？(価値理解) (なぜ大切なのでしょう？)		②この主題の難しさは？ (人間理解:弱さの部分) (いつでもできますか？ 誰に対してもできますか？)	
ア自分なりに考えて	イ他の先生方と話して	ア自分なりに考えて	イ他の先生方と話して
相手を思いやることの大切さに気付き、行動に移すことは大切だが、相手を思いやり見守ることも親切である。	「相手のために」「良かれと思って」行った行動や言葉かけが、実は本人のためになっていない「余計なお世話」や「おせっかい」になっていることがある。「親切にしてあげた。」という自己満足で終わることもある。	自分の中では良かれと思ってやったことでも、相手のためにならないことはたくさんある。また、目に見えた親切は分かりやすいが、目に見えない親切な行動は、相手にとって親切なことかが分かりにくい。	「その人のため」「困っているから」と判断して行ったことが、本当に相手のためになっているのか考えて行動することは、中学年にとってはなかなか難しい。日常生活で「おせっかい」になっている場面がよくある。

③難しさを越えて大切にしたいのはなぜ？ (それでもなおの大切さは？) (人間理解:弱さを越えてよりよく生きようとする強さの部分・新たな気づきとしての価値理解)		④学習指導要領にはどのように？	
ア自分なりに考えて	イ他の先生方と話して	(1)内容項目の概要には	(2)指導の要点には
親切には様々な方法があるが、行動に移さない隠れた親切もある。生活の中で親切な行動とは何かを少しずつ考え、その状況や相手の様子に応じた親切な行動をしていくことが大切。	「相手のため」を思って「何もしない」「手をかさない」という親切もある。相手が本当に求めていることは何かを考えて「手をかす」「助ける」ことが大切。	単に手を差し伸べるだけでなく、時には相手のことを考えて、温かく見守ることも親切な行為としての表れである。相手のことを親身になって考えようとする態度を育てること。特に学校生活においては、学校の人々や友達など様々な人と直接的に多様な関わり合いをもてりょうにすることを通して、思いやりや親切の行為の意義を実感できる機会を作っていくことが重要。	中学年の段階においては、友達同士の交流が活発になるとともに、活動範囲も広がってくる。様々な人々との関わりが次第に増えていく中で、相手の気持ちを察したり、相手の気持ちをより深く理解したりすることができるようになる。一方、他の人々の感じ方や考え方が自分たちの感じ方や考え方と同様であると思いがちになることもこの時期の特徴である。そのため、相手に対する思いやりの心を育てることが一層重要になる。

【2】教材解釈：教材のどこを用いて授業を作るのか捉えよう

<p>⑤教材を読み、本時の主題を焦点化しましょう。 ※この教材は、内容項目の概要のどの部分を特に考えさせたい教材だと思いますか？</p>	<p>⑥教材のどんなところから⑤のように考えましたか。 ※中心人物の心の動きに注目して考えてみましょう。</p>	<p>⑦この主題を実現することの「難しさ」は、どのように教材に描かれていますか。 ※人間の弱さ、醜さ、葛藤を描いている部分を探しましょう。</p>	<p>⑧難しさを越えて大切にしたい「それでもなおの大切さ」は、どのように教材に描かれていますか。 ※葛藤を乗り越えようとする部分やよりよく生きていこうとする部分を探しましょう。</p>
<p>相手のことを思って行動に移すことも大切だが、見守ることも親切であることに気付く。親切には様々な考え方があることに気付く。</p>	<p>ぼくは、おばあさんのことを思って声をかけたが、おばあちゃんから断られ、残念に思っていたが、お母さんの話や数日後のおばあさんの嬉しそうな様子を見て、ぼくの心はぱっと明るくなり、ほっとむねをなでおろしたところ。ぼくが最後に、「ほんとうの親切とは何かが少ないだけわかった気がした」ところ。</p>	<p>おばあさんを助けたいと思って声をかけたのに、おばあさんに断られてしまい、せつなく声をかけたのにと残念に思うところ。数日後にもう一度おばあさんに出会い、ぼくはしばらく考えてそと後ろをついて歩いていくところ。</p>	<p>お母さんの話を聞き、おばあさんの本当の気持ちが分かった気がした僕が、数日後にもう一度おばあさんに出会い、声をかけずにおばあさんについていき、にっこり嬉しそうなおばあさんの顔を見て、ほっと胸をなでおろすところ。おばあさんの嬉しそうな顔を見て、ぼくの心が明るくなり、最初と最後の僕を思い出して、ほんとうの親切とは何かが少ないだけ分かった気がしたところ。</p>

【3】授業のねらいと発問、そしてゴールを考えよう

<p>⑨ねらい⇒「……することを通して、～～とする道徳的判断力(心情、実践意欲と態度)を高める。」</p>
<p>ねらい「ほんとうの親切とは何かが少ないだけわかった時のぼくの気付きを考えることを通して、ほんとうの親切とは何かについて自分の考えを持ち、見守ることも親切の一つであることに気づき、相手の事を本当に思いやり、親切にしようとする心情を育てる。」</p>
<p>⑩⑦を捉えさせる発問はどんなものが考えられますか。また、その人間の弱さに共感させる発問も考えてみましょう。</p>
<p>「荷物、持ちます。」と声をかけたのに断られた「僕」は、どんな気持ちでしょう。</p>
<p>⑪⑧を捉えさせる発問はどんなものが考えられますか。また、その人間の強さに共感させる発問も考えてみましょう。</p>
<p>「ほんとうの親切とは何かが少ないだけわかった気がした」ぼくは、どんなことがあったのだろう。</p>
<p>⑫ゴールの姿⇒授業の最後には、例えばどのような言葉が子供から出てくるとよいでしょう。</p>
<p>子供が自分の言葉で価値を再定義すると、例えば「全部をやってあげるのではなく、見守ってあげるのも親切なこと。」「相手のことを思って行動することが親切なこと。」「これからは友達のことを考えて親切なことをしていきたい。」「相手がしてほしいことかどうか考えて親切をする。」</p>

●上記を基に、思考を促す板書計画も作成していきましょう！ (2021年度改訂版 宮里智恵作成)